

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	コロナ禍における適切な避難行動	目黒区
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	私のヒナン・ヒョウメイ		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	未来減災課		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数（公開）	5 名		
代表者（公開）	斎藤 啓之		
メンバー（公開）	グアラニエリ菜穂 中山佳誉子 斎藤好美 伊藤優花		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

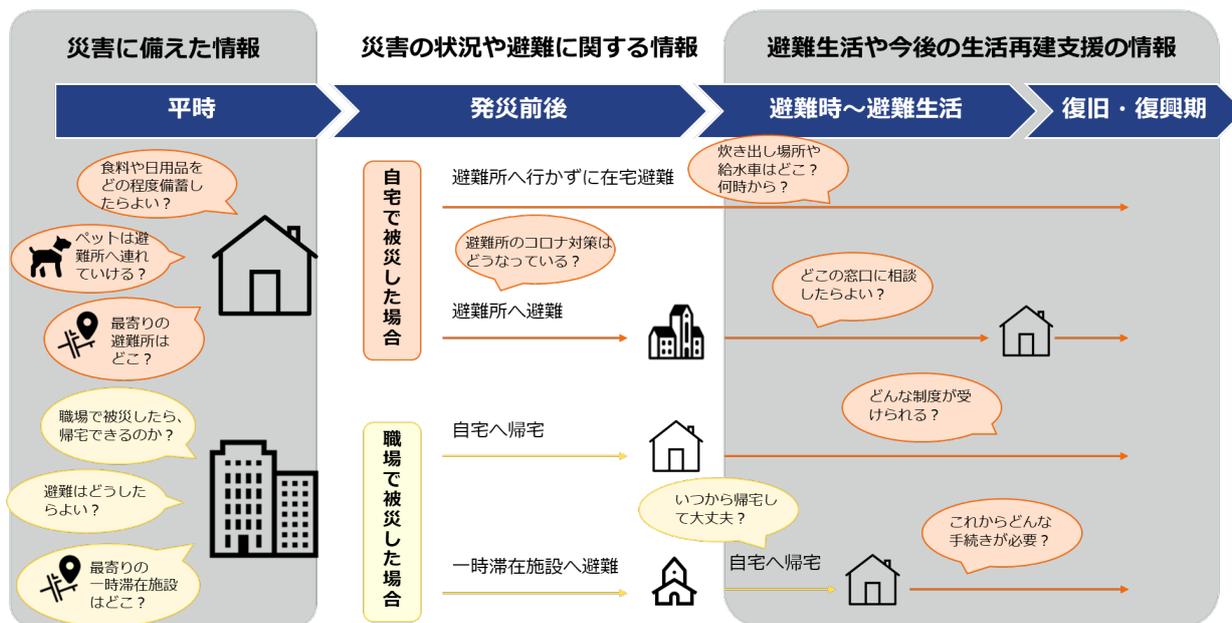
区側と区民側との間に、「風水災害時の避難」の運用ミスマッチがある！？それはどこ？なぜ？

それは、自治体ごとの縦割り（東京都の防災と、国の防災と、目黒区の防災と、それぞれの管轄や予算があるけど、区民にはよくわからない）と、担当分野の縦割り（防災課のやることと、避難所施設である区立の小中学校施設を管理をする教育委員会）があるからではないか？目黒区側も、適切な避難を住民に促すような施策をたくさん提供してきてくれているが、区民一人一人の当事者意識にまで届いていない。それはきっと、

自治体にある防災課は、自治体ごとや担当課ごとに活動していて、街づくりとして横断する連携が乏しいからではないか。

また、住民の多様性が大きくて、区からの発信だけに頼るには限界がきているからではないか。

風水災害発生前後で目黒区民側が必要とする情報の多様性



そこで、私たちは、未来減災課を立ち上げることにする。未来減災課は、「未来に対しては縦割り分断が無い、そういう情報の分断やフローの分断は考えない防災減災を作りたい！」ということ、「防災、減災、ヒナンは、ジブンゴトとして、ヒョウメイしていく、その声を、行政に自分から届ける橋渡しになりたい！」ということを目指して活動する。

自ら考えて行動する、新しい避難（ヒナン）を実現したい。そのためにも、住民起点の減災活動を、自治体と一緒に作りたい。そして、それは、区内の小中学生と、また学校と一緒に作りたい。未来を作る子供たちと、街を作りたい。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで…>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

区民からの提案！

「私のヒナン ヒョウメイ」を始めませんか？ 風水災害バージョン

ヒナンヒョウメイの流れ：

1. 目黒区の天気予報データで台風通過情報をキャッチ

<<http://dim2web09.wni.co.jp/megurocity/pinpoint/index.html>>

2. 目黒区の以下の防災関連チャンネルから、区民に対して PUSH 通知

「私のヒナンヒョウメイ」（Google フォームなど、気軽にアンケート結果を作れるツールとする）

- ✓ 目黒区防災アプリ(GPS 連動) <防災アプリ 1 万ユーザー/28 万区民数 >
- ✓ 目黒区公式 LINE
- ✓ Web サイト
- ✓ ツイッター
- ✓ 目黒区メルマガ（登録しておくメールベースで情報を Push してくれる）
- ✓ 学校見守りメール（教育委員会）

4. Google フォームなどで簡単に作成し、集計ができる！

私のヒナン・ヒョウメイ

「台風●号が関東に上陸したら、私はこんな避難をする予定です」



(回答案)

- ① 自宅で避難する予定です（「自宅避難」の説明）
- ① - 1 : 1階に避難する予定です
→ ハザードマップは確認しましたか？
- ① - 2 : 2階より上の階に避難する予定です（「垂直避難」の説明）
- ① - 3 : 自宅では●名で避難する予定です。
- ② 避難所が開設されたら、避難所に避難する予定です（「避難所避難」の説明）
- ② - 1 : 私と他、○人と一緒に避難する予定です
- ② - 2 : ペットと避難したいです。ペットは小型犬●匹です
- ② - 3 : ●●から避難する予定です（地名）
→ どちらの避難所に避難する予定ですか？
- ③ 近所の親戚や知人の自宅に避難する予定です（「分散避難」の説明）
- ④ 関東よりも遠方に避難する予定です

5. 目黒区側の避難所開設や、避難勧告運用に繋げる

- ・ 何名ぐらいの区民が、どの避難所に来たいと考えているか事前にわかる。
- ・ さらに追加の質問へ誘導し、より適切な避難方法の啓発をするきっかけにする！
 - （自宅避難の場合）十分な備蓄品の準備がありますか？（非常食、非常飲料水）
 - どこから避難する予定ですか？（地名情報まで）
→ 来所するかもしれない、近辺の避難所を事前に把握できる
 - 避難勧告がでたら、通知してほしいですか？
 - 避難所が開設したら、通知してほしいですか？
→ 市民に寄り添うサービスへ

～～～「私のヒナンヒョウメイ」プロト イメージ～～～



2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）



2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

14:59 docs.google.com

水害(河川氾濫)から身を守るためのポイント

1.夜に大雨が予想されているときは、夕方までに避難する
2.川や用水路の様子を見に行かない

不安に感じたときは、避難をするタイミングです。
暗くなって大雨の中の避難は危険です。
暗く見えないだけでなく、大雨で音も聞こえにくく、崩れている道路に気づくのが遅れたりして夜中の避難中に被災することがあります。
特に災害に弱い高齢者や子供のいる家庭では天気予報を見て暗くなる前の昼や夕方に早めの避難をするようにしましょう。

大雨のときに川や用水路の様子を見に行くと被災することがよくあります。

14:31 LINE docs.google.com

ヒナンヒョウメイ

ヒョウメイする

ご協力ありがとうございます

最後に **送信** を押してください
↓↓↓

戻る 送信

6. 区民側の 避難運用に繋げる

- 避難する予定の場所を、事前に行政機関に伝えられる。

目黒区の避難所は全部で〇箇所あります

避難所をえらぶ

どの避難所に避難予定ですか？

5件の回答

避難所	割合
避難所A	40%
避難所B	40%
避難所C	20%

- コロナ対策が不安な中で、避難の啓発系、広報施策をよりよくするための情報にできる
 - 避難情報を事前登録しますか？
（ご一緒に何人避難する予定でしょうか？）
（ペットと一緒に避難されますか？）
（避難所でお手伝いが必要な方（要介護の方）もご一緒に避難されますか？）
 - どこから避難する予定ですか？（地名情報まで）
→ 来所するかもしれない、近辺の避難所を把握する
 - 避難所が開設したら、通知してほしいですか？
 - 避難勧告がでたら、通知してほしいですか？
→ 適切な避難に繋がられる

21件の回答

回答を受付中

概要 質問 個別

私の避難方法を表明します！

21件の回答

回答内容	割合
はい	66.7%
避難するか迷っている	9.5%
自宅に待機する	14.3%
いいえ	9.5%

全部で何人で避難しますか？

14件の回答

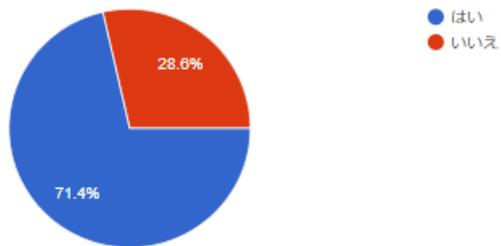
人数	割合
1人	14.3%
2人	7.1%
3人	21.4%
4人	42.9%
5人	14.3%
6人以上	0%

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

動物も一緒に避難しますか？

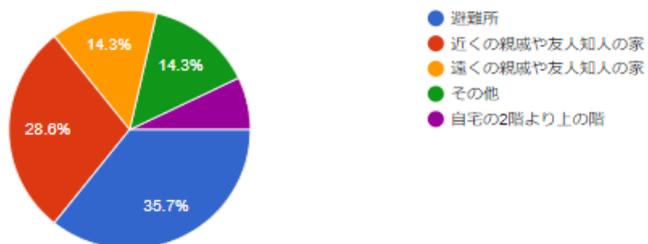
14 件の回答



動物と一緒に避難する場合

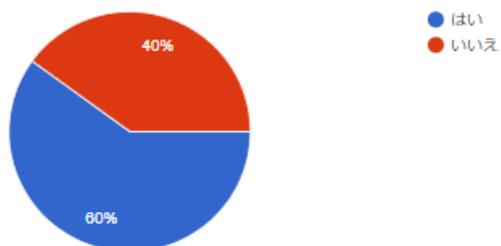
どこに避難しますか？

14 件の回答



ハザードマップは確認しましたか？

10 件の回答



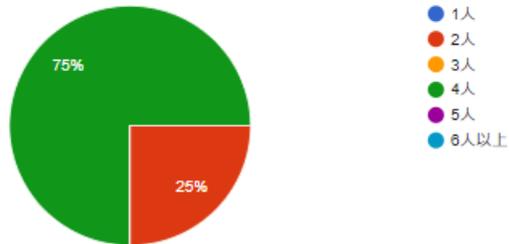
2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

ハザードマップを確認した人

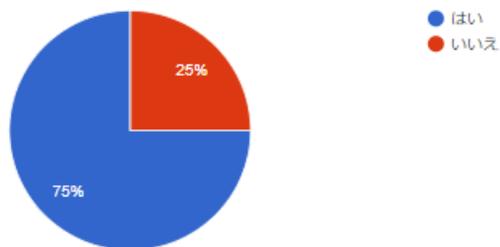
自宅にいるのは全部で何人ですか？

4件の回答



万が一1階が浸水してきた場合、2階より上の階に避難できますか？

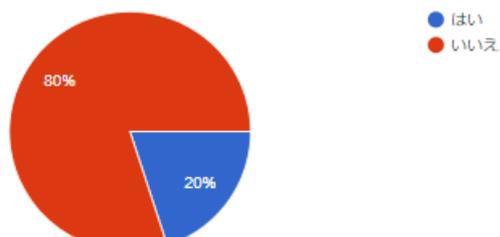
4件の回答



避難所に避難するひと

どこの避難所に避難するか決まっていますか？

5件の回答



7. さらに、、「未来減災課」が未来に対して行いたいことが2点。

【1】

インセンティブづくりと、地域商店街の振興と、減災活動を掛け合わせる

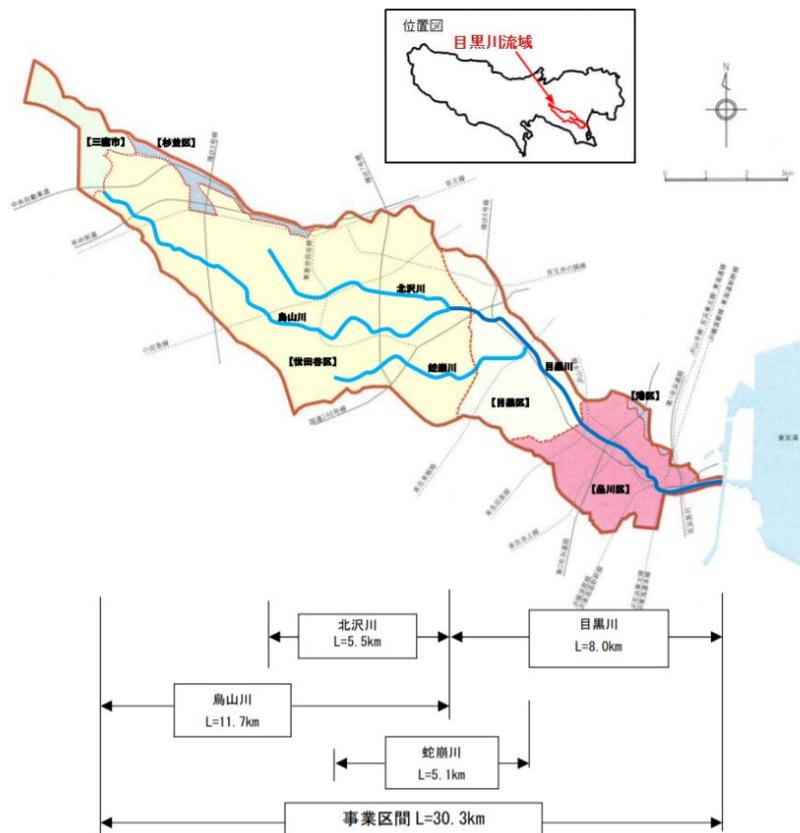
私のヒナン・ヒョウメイ の利用率を高めるためのインセンティブとして「目黒区防災ポイント」サービスを作る。

ヒナン・ヒョウメイを提出したら、「目黒区防災ポイント」を1 Pもらえる。1 Pは目黒区内の商店街で、防災に関わる商品（備蓄の飲料水や、浸水防止と交換できる。）

【2】

このプロジェクトを進める場合は、目黒区のみとやらず、「流域人口」の概念で行う。

区境の住民は、境目によって避難を考えたりしない。以下の図に示す通り、目黒川流域は、世田谷区、目黒区、品川区に流域がある。



<出典 : <https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/temporary/content3/000038913.pdf>>

目黒川については、東京都による「目黒川流域河川整備計画」が平成 30 年度 4 月より策定されているため、この計画の中の一環として、川との共生という視点で、取り組んでいくことも大切だと考えている。

【3】

マイナンバーで、ヒナンヒョウメイ登録した区民には、罹災証明発行がオンラインでできる。

目黒区の行政手続き業務と連携して、オンライン手続きの促進につなげたい。、東京都の「東京共同電子申請・届出サービス (<https://www.shinsei.elg-front.jp/tokyo2/navi/index.html>) を利用できるはず。共済加盟をしている区民にも、とても嬉しいサービス！

民間損害保険に加入している区民にも、罹災証明が不要なことを改めてお知らせできる！

【4】

目黒区教育委員会と連携して、GIGA スクール関連の一つとして、小学校中学校のデジタル教材の一つに、ヒナン・ヒョウメイを連携したい。その理由は以下の通り。

まず、地域防災が大人に根づいていない。⇒存在を知らない

より街の活動に根づいて日々行動している、「子ども」を起点に、「避難」を考える。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

しかし、紙媒体で、学校からお知らせを配ったとして、多分スルーされる。なので学校の授業一環で、学校のパソコンの授業内などで、PC や iPad から登録してみたりする、そんな「デジタル避難訓練」を始める。宿題にしてもらい、家庭で話し合ってきて、それを学校で一斉に入力する、という教材連携もできる。そしてそれが当たり前文化になれば、30 年後、40 年後、100 年後それ以降地域防災が根付くことになる！

目黒区で増加が見込まれる高齢者人口に関しては、紙ベースで集めてもいい。区民センターにアンケート用紙を置いておく。紙で記入した方は、区民センターの窓口の方が、代理入力してもよい。

大切なことは、災害毎に聞く。

何度も書いてもらう。

避難は 自分のことだから。ジブンゴト にしていきたいことだから。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

2019 年 10 月 12 日の大雨による避難勧告および避難所開設に関して起きたこと。以下は、目黒区と本提案を企画した市民とのディスカッションの中で討議された。

東京目黒区近辺の降雨量の変遷は以下の通り。

tenki.jp トップ | サイトマップ | ヘルプ

tenki.jp 千・住所を入力 検索 現在地

天気予報 観測 防災情報 天気図 指数情報 レジャー天気 季節特集 tenki.jp ラボ

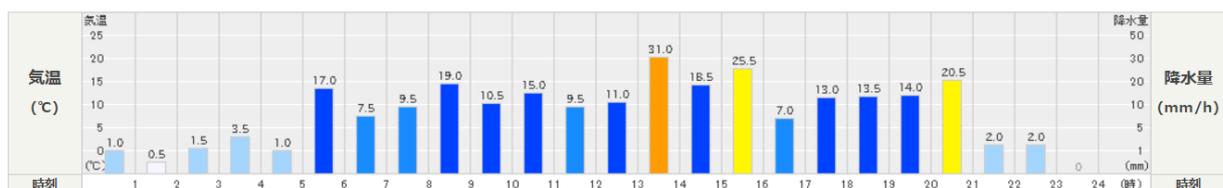
雨雲レーダー 天気図 PM2.5 分布予測 地震情報 日直予報士 スキー積雪情報 NEW

トップ > 過去天気(アメダス実況・気温)2019年10月 > 12日 > 関東・甲信地方 > 東京都 > 世田谷

特待生合格目指すなら岡山理科大
入試特待生採用人数235名。特待生 | なら最大4年間の全学費免除! 一般入試A・B日程は1/19迄

世田谷(セタガヤ)のアメダス (2019年10月12日)

2019年10月12日



<<https://tenki.jp/past/2019/10/12/amedas/3/16/44132.html>>

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

目黒区側の防災対策は以下の通り。

- 自主避難所 3 か所開設（8：00）

<目黒区民側のコエ>

この時、自主避難をしてきた年齢層が知りたい
どんな年齢層がどんな背景で、自主避難を自分の意思で行ったのか。
率先避難者をこれから養成していくときに、大切なスタートポイントになる。

- 13:00 避難勧告 レベル3 避難準備・高齢者等避難勧告

- 大鳥中学校 避難所開設
- 菅刈小学校 避難所開設

<目黒区側のコエ>

土曜日だったので、昼間であっても速やかに避難所開設ができた。
平日だと、授業中の小中学校を避難所として開設することは、教育委員会との調整が必要、時間がかかる。

<目黒区民側のコエ>

- 学校の避難所を、平日に開設するためには、たくさんの調整が必要であることを知らなかった。
- 13：00 は雨量が最も激しかった時間。これよりも前に避難勧告を出すのが難しい理由がわからなかった
- 開設の時の役所側の段取りやフローが、もっと公開されて透明になる仕組みがあれば、区民も、自主的に判断できるのでは。

- 18:00 避難勧告 レベル4

- 東山中学校 避難所開設

<目黒区民側のコエ>

- 雨風が厳しい時間の避難勧告4がこんなにも遅くなってしまった理由がわからない。役所側の段取りやフローが、もっと公開されて透明になる仕組みがあれば、区民も、自主的に判断できるのでは。

※ ピーク時は426人が避難（21：00） 6避難所合計

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

実現主体

目黒区と未来減災課 共同事業

実現に向けた必要資源

現状での想定概算は以下の通り：

- 1) Google Form を利用すれば、システム費用は0円。
- 2) 会議を行ったり、Formの掲載場所を設定したり、避難ヒョウメイで集まるデータの活用を行う調整コストを目黒

区側が負担してもらえれば 0 円

- 3) 目黒区防災アプリの、「ガイド」にあるコンテンツを、教材としても使えるようにデザインや文章を変更したい。こちらのコンテンツ作成費は、ライターやデザイナー外注、PM など 300 万～500 万ほどかかると想定。
- 4) 罹災証明書発行をオンライン化する費用は、東京都の「東京共同電子申請・届出サービス（<https://www.shinsei.elg-front.jp/tokyo2/navi/index.html>）」が東京都下の区市町村も利用できる、オンライン手続き申請システムを開放しており、こちらを利用すれば費用は 0 円
- 5) 今後の、地域ポイントへの展開も可能となれば、ポイント発効・防災グッズ交換の管理事務局運用を行う団体へと育て、本事業の継続維持の体制を整えていく。

■ 開発費

3) の開発費さえ確保できれば、それ以外は、人的コストであり、システムコストはほとんど不要。

■ 運用費

基本的に人的コストや、仕組み整備運用のコストのみ。

この事業の持続性のために、目黒区防災ポイント発効等を実現し、目黒区公式の事業として取り組んでほしい。

実現方法

目黒区防災アプリの、「ガイド」にあるコンテンツの教材化については、2021 年度予算の中で実行できるように、提案していく。クラウドファンディングを目黒区と共同でトライしてみるのもよいのではないかと考える。

まずは、目黒区の 1 つ 2 つの小学校をベースに、取り組みを始めていければよい。目黒区のハザードマップに隣接する、碑小学校と、目黒川沿いの避難所指定の学校と一緒に取り組めるように、提案をしていく。

また、世田谷区、品川区とも連動したヒナンヒョウメイとできないか、両区における、区民団体などに相談をする。

また、費用の面以外において、目黒区に対応として、さらなる利活用可能なデータ公開を支援したい。今回のプロトタイプにおいては、

- ① 目黒区の HP にて公開されているハザードマップはデータ量が非常に重い P D F データしかない。無理やり jpg に変換したが、できれば自分の住んでる地域を選択して、その周辺の地図画像をもっとアップで見せてあげたい。
- ② 目黒区の HP からたどり着く、防災関係の URL リンクは、スマホレスポンスになっていない（PC と同じ画面）で、避難情報を探しているときに活用するスマホでは見にくい。ちなみに、東京都の防災 HP はちゃんと 100% 表示（スマホの幅に合わせて表示されるので見やすい）されている。
- ③ 目黒区の HP「災害・防災に関するリンク集」に貼られているリンクが更新されておらず、古いリンクのままである。避難を適切に促すためにも、風水害と地震災害とでは、避難の「適切性」が異なることを、きちんと分けて示すような情報公開を、区民と一緒に考えていく（区だけで作ろうとしない）、そんな活動にもつなげていくとよいのでは。

※東京都からは、水災害の場合のヒナンだけに明記した広報が、地震災害の場合のヒナンと並列して公開されている。

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/bousai/1000026/1005654.html>

秋のアイデア考案段階における課題提示自治体との連携状況について、以下の質問にお答えください。